

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style

[ビズスタ東京]

2016 03

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、関西、京都・滋賀、仙台、福岡にて45万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは

TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作/株式会社デイリースポーツ案内広告社

〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F

©2016 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



世界中の愛好家たちが ドイツ WEMPEを推す理由。

ヴェンペ

WEMPE ZEITMEISTER WM53 0001
572,400円(税込)

クロノグラフ トリプルカレンダー ムーンフェイズ
ステンレススチール、シルバー仕上げダイヤル

My Favorite Life Style

About

WEMPE GLASHÜTTE 1/SA

ヴェンペを知る



19世紀後半から著名な時計師が次々と移り住み、現在はラッゲ&リーネやグラスヒュッテオリシナル、ノーマスなど錚々たるブランドの中核拠点が集結。ザクセン州のグラスヒュッテは、今やドイツの時計づくりの聖地的存在としてファンを集めている。



1910年に創立され、役目を終えた後は廃墟と化していた天文台を、ヴェンペが修復に着手。チューリッゲン、ザクセン 両州の協力を仰ぎながら、見事に復活させた。敷地内に時計工房を設置し、ドイツで唯一となるクロノメーター規格試験機関も設立されている。



老舗時計宝飾店としてのヴェンペは、140年近い歴史を持つ。現在はドイツ国内の20店舗を中心に、イギリスやフランス、スペイン、そしてアメリカなど、全29店舗を運営。残念ながら日本には直営店がないが、その代わり、世界初の正規代理店が認められた。



ヴェンペは、ムーブメントまで自作する数少ない「マニファクチュール」のひとつ。クロノメーターヴェンペでは、素材選りから仕上げまで徹底して行われる。スタンダードモデルのツァイトマイスターは、既製品を一度すべて分解し、緩急針や耐震装置を高級仕様のパーツに交換するというこだわりぶりだ。



ドイツを代表する時計専門誌とニュースマガジンが主催し、読者投票で「その年の世界」を決める名誉ある時計賞「ゴールドテンツェル」。ヴェンペは同賞の常連で、テクノロジー賞(金賞)の受賞をはじめ各カテゴリーで上位に名を連ねる。



WEMPE ZEITMEISTER WM54 0001
367,200円(税込)
クロノグラフ
ステンレススチール、シルバー仕上げダイヤル

WEMPE CHRONOMETERWERKE WG08 0005
2,322,000円(税込)
18Kゴールドモデル
シルバー仕上げダイヤル ローマ数字



WEMPE ZEITMEISTER WM37 0004 399,600円(税込)

WEMPE ZEITMEISTER WM34 0002 302,400円(税込)

WEMPE ZEITMEISTER WM35 0001 399,600円(税込)

WEMPE ZEITMEISTER WM14 0001 232,200円(税込)

WEMPE CHRONOMETERWERKE WG04 0002 734,400円(税込)

WEMPE CHRONOMETERWERKE WG04 0012 734,400円(税込)

WEMPE CHRONOMETERWERKE WG08 0007 1,026,000円(税込)

WEMPE CHRONOMETERWERKE WG08 0003 1,026,000円(税込)

WEMPE CHRONOMETERWERKE WG07 0002 934,200円(税込)
※NEW(発売日未定)

規格づくりに関わったと聞く取得に有利な立場にあるのかと思えば、実情はまたたくまに、世界の時計師が身震いするほど厳格なものだ。

まず、ムーブメント(機軸部)をケースに収めた状態で、5種類の姿勢で検査を受ける。それも期間は15日間、3種類の温度差のもとで計測し、発生する平均日差がマイナス4秒〜プラス6秒の範囲内でないといけない。この製品がクリアしていることは、明かせることのできる。これ以上言及することは、文字通り、折り紙付きの精度ということになるのだ。

時計商から出た発案したヴァンペだが、似たブランドを持つウオッチメーカーは日本にもある。その店は、原則として直営店ではなく販売されないヴァンペを購入できる希少な場所でもある。次ページでは、この実際に手に取れるヴァンペについて紹介しよう。

世界の高級ウオッチ市場には、結露星のごとく名門がひしんでいるが、その中でもヴェンペは、独自の立ち位置にいる。1910年の創業当時、高級時計宝飾店の看板を掲げていたのだ。

現在は世界で29店舗を展開する代表的な時計師のその140年近く及び歴史の中で、世界の名だたるブランド群と友好的な関係を築いてきた。ラング&ソニーははじめてとするドイツブランドだけでなく、ハミルトン、フレッド、パロレックス、ハミルトンといったスイスブランドなど、その顔ぶれは豪華絢爛。パテック・カルペ、ヴェンペ、リー・ウォッチマンといったタブルネームモデルの販売が認められ、また自社に対して自社の周年記念モデルの製作を依頼

「ダイクローメーター」規格取得品
販売するすべての製品が、ドイツの製造工場です。すべて自社工場で製作され、かつドイツクロノメーター規格を取得している。

ダイクローメーターの古い天文台を買取り、隣接する形で自社工場を設置。若手の時計師を自社で育成することにも、ドイツクロノメーターの規格を立ち上げることに成功した。また、近年はドイツブランドの台頭が著しいが、その火付け役と見る向きも少なく、同国の時計製造業界に多大な貢献を果たしていると言え

そのブランドは、最近になって突如として頭角を現したように見えるかもしれない。だが、ウオッチに詳しいのであれば、それがただの価値を有するものかについて、よく考えてみる。

「ヴェンペ」は、ドイツを代表する本格機械式時計ブランドだ。ドイツ製ならではの無駄がなく、端正なデザイン、スイス製品に匹敵する信頼の機構、目を覚ます歴史と実績。インターネット時代に入って存在感を増しているのは、これまで販売網が限られてきたからだ。

一度手に取れば、嫌でも惚れ込んでくる。名品の重み、今回は、日本国内でも人気急上昇中のヴェンペの基礎知識について、ざっくりと俯瞰してみよう。

類と異なる間柄と云えば、その信頼の厚さが想像できるだろう。

「ワウチ」メーカーとしてのヴェンペの歴史は、戦時中のマリンクロノメーターの製造に遡る。船舶用のクロノメーター(モナコ)式の高精度時計は、海上では現在位置を割り出すための命綱でもあったため、精度が命。船の揺れや温度変化の影響を避けるだけの信頼性を備えた時計づくりは、この頃から始まっていたわけだ。

その後は、針糸曲折を経て本格的に腕時計に取り組みこむことになるが、この際、かつてクロノメーターの精度検定を受けた天文台を自社で所有する決断を下す。腕時計製造事業に乗り出す上での絶対条件がクロノメーターであることだったからだ。当時のスイスで検定を受け付けてもらえなかったという事情もあるが、それでもこだわったのはクロノメーターを国際規格にするという夢を実現するためだったという。

台頭するドイツブランドを牽引する高級機械式時計の名門。

My Favorite Life Style



シェルマン 伊勢丹新宿店メンズ館

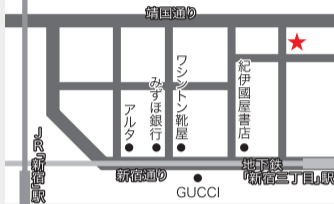
ブランドの垣根を越え、
フラットな気分で時計の魅力に出会える場所。

壁三面にスワリと並び、世界的な名品の数々。シェルマンの伊勢丹新宿店メンズ館は目も眩むようなコレクションを誇るが、高揚感が落ち着いたら、その「並べ方」に注目して欲しい。一般のショップのような「ブランド別」の陳列ではなく、ジャンルごとに配置されていることに気付くはずだ。

左はクラシック時計を、右にはハイスベック製品を...と言葉にするのは簡単だが、高級ウォッチはそれぞれ固有の世界観を持つため、単に集めるだけではバラバラになってしまう。これを破綻なくまとめるには、実は高度な知識と美意識が必要なのだ。

こうした「腕」は、定期開催されるイベントにも発揮されている。画的な「ブランド祭」ではなく、気分やシチュエーションでテーマを立て、それに合致する製品を提案してくれるのだ。また、「ウォッチアラウンド」ではコレクション用のボックスから工具まで、味わい、愉しみ尽くすためのアイテムも。予備知識がなくても高級時計の世界に踏み出せる売場づくりは、ビジネスの参考にもなりそうだ。

■取扱ブランド メンズアンティークウォッチ、シェルマンオリジナル商品、ヴェンペ、H.モーザー、エペラルム、クロード・メイラン、ノモス、アエロウォッチ、プレモン、ハプリング2、クドケ、トーマス・ニククリツ、モーリス・ラクロア、ルイエラルム、ジャン・ダニエル・ニコラ、プリム



東京都新宿区新宿 3-14-1
伊勢丹新宿店メンズ館8階
TEL.03-3352-1111 (大代表)
営業時間/10:30~20:00 不定休

世界初の快挙、ヴェンペが認めた販売店

ヴェンペは、長く欧米を中心に世界各国に構える自社直営店でのみ販売されるブランドだった。これまで、日本の時計ファンたちの会話の中にあまり登場しなかったのは、販売網が極めて限られていたためだ。では、なぜ最近になって注目を浴びるようになったのか。答は簡単で、日本の店頭で手に取れるようになったのが、つい最近のことだからだ。

ヴェンペ同様の熱意と哲学が
自社直営店限定の姿勢を変えた

銀座に本店を構える老舗時計店「シェルマン」がヴェンペ製品の取り扱いを開始したのは、2012年の夏のこと。ヴェンペが直営店以外で自社製品の販売を許可したのはこれが初めてで、世界中の愛好家たちの度肝を抜いた。極めて稀な前例づくりにヴェンペがGOサインを出したのは、シェルマンの時計に対する哲学がよく似ていたからにはほかならない。

ヴェンペは時計店から出発したミニマクチュールだが、シェルマンもまた、時計商として事業を展開する傍らでオリジナル製品づくりに励む企業だ。時計商としての製品選び、メーカーとしての製品づくりに妥協を許さぬ姿勢は、ヴェンペの目には弟のよじに映ったのかもしれない。

ヴェンペがシェルマンに寄せる信頼は相当なもので、正規代理店契約の締結に際しては、直営店にしか置かない製品カタログの設置を許可。それも、わざわざ自ら日本語版を作成してくれたというのだから驚く。加えて、現在では何とオンラインショップで

の販売まで許可するという溺愛ぶり。まるで家族のように温かな両者の関係は微笑ましくもあり、日本人としては誇らしくもある。

というわけで、ヴェンペ製品は、銀座本店のほか「銀座三越」と「伊勢丹新宿店メンズ館」の両店舗で現物を確認できる。ヴェンペ本社の寵愛を受ける店舗だけにスタッフはマニア顔負けの知識量を持っているが、その一方で機械式時計の入門者も歓迎してくれる。

都内のビジネスパーソンであれば、どちらも便利な立地だ。ヴェンペ以外の取り扱いも充実しているので、ぜひ体験を。



時計愛好家垂涎の超複雑機能と、古典美を追求したデザイン&仕上げが光るシェルマンオリジナルウォッチ



今年の1月からシェルマンオンラインショップでWEMPEのコレクションが購入できるようになった

シェルマン 銀座三越

モノづくり文化の精神と熱量まで伝え切る
ミュージアムのようなウォッチショップ。

銀座・有楽町地区で規模の大きな百貨店、「存じ」銀座三越」。館内のシェルマンのショップでは、時代を超えて愛されてきた世界の名品たちを中心に、独自の視点でセレクトしている。

同店の特徴は、機械式時計が発散するモノづくりへの精神と熱量を伝えるかのようなディスプレイスタイルだ。たとえばテーマが「スケルトン」であれば、ブランドの垣根を越えた製品群をピックアップするだけでなく、ショーケースのライティングにもこだわり、構造や装飾美を分かりやすく見せてくれる。

特定の時計師の作品を展示する際には、製作環境や個人的な趣味、創作のルーツにまで言及。人物像や成育背景、そして物語性まで堪能できる陳列法は、ショップでありながらミュージアムを思わせる手法と言えるかもしれない。

製品ラインナップはもちろん充実のひとことで、クラシックからモダンまで何でも相談可。時計への愛情に満ちたショーケースづくりはマニア層からの評価も高いが、知識が要らないという点で、むしろ入門者にこそおすすめだ。

■取扱ブランド シェルマンオリジナル商品、ヴェンペ、アエロウォッチ、トーマス・ニククリツ、クドケ、ハプリング2、H.モーザー、ノモス、フレデリック・コンスタント、クロノスイス、ユンハンス、ベキニエ、クエルポ・イ・ソプリノス、モーリス・ラクロア、プリム



東京都中央区銀座4-6-16 銀座三越6階
インターナショナルコレクターズ
TEL.03-6228-6911 (直通)
営業時間/10:30~20:00 不定休

